

# 北の自然 号外

1987年5月21日  
発行・北海道自然保護連合  
代表 瀬川 潔  
編集・田中明子  
事務所  
065 札幌市東区北23条東1丁目  
堀江ビル2F  
自然保護センター  
電話 (011)742-3161(代)  
振替口座  
小樽 1-4071

## 署名総数 一四九、一三六名

全国から寄せられた署名は五月一日現在で一四九、一三六名に達しました。  
三月十日、環境庁に七万人分を、翌十一日に林野庁の業務部長に七万五千三百人分を手渡しました。国会開会のため大臣にはお会いできませんでしたが、各々の責任者に「強行伐採はせず、十分時間をかけた生態系調査を行なって下さい」「知床国立公園の地種区分を特別保護地区・第一種に格上げして下さい」と要請しました。

## 知床募金三、九九一、八七二円 知床募金にお寄せくださった皆様へ

### ありがとうございます

去年九月より寄せられた「知床募金」は三、九九一、八七二円になりました。道連合受付分について会計報告いたします。

主な使用は九月一日から十月二十三日まで現地ウトロでの阻止行動・キャンプ隊の経費です。キャンプ場・農業会館使用料の他、食費(主食のみ)、通信費、テント等破損代などです。

# 知床の熱い想いをありがとう!

## 知床募金会計報告 (道連合受付分)

1987年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
細正憲氏寄付	1,000,000		事務消費費	88,339	コピー代含
知床募金	2,674,072		通信・運搬費	363,692	切手・電話代
知床自然保護協会から	300,000		交通・旅費	478,110	東京・大阪・道内
絵ハガキ	17,800		人件費	1,160,000	専従2(9-2月)、アルバイト1名
合計	3,991,872		印刷費	324,400	署名・資料集他
			会議費	34,900	
			図書資料費	48,240	新聞代・専門書
			知床キャンプ費	781,044	食費・施設使用料他
			阻止行動費	284,974	トランシーバー・レンタル料・車箱他
			東京行動費	87,620	旅費・車代他
			備品	170,000	ワープロ
			絵ハガキ代	40,000	
			その他	4,800	
			合計	3,866,179	

収入合計 3,991,872 支出合計 3,866,179 差引残額 125,693

阻止行動費にはシマフクロウの巣箱三ヶも含まれています。巣箱は現在知床自然保護協会で保管されています。近いうちに活用します。人件費については、知床問題が活発化した九月から道連合の専従者一名ではとても対応できず、のべ三名の専従・アルバイトを頼みました。一カ月六万円で朝九時から夜十二時まで。会社をやめたばかりの仲間、ミニコミ誌の専従の方には二カ月ピンチヒッターとして事務所につめてもらいました。特に九月・十月上旬はベニツク状態で一日中二台の電話は鳴りどおし。トイレにも行けないほど



これが国立公園(伐採された後の状態)

### 切られてしまいました でも「知床」は続きます

四月十四日午前十時、樹齢三百年のミズナラ・セン・イチイ・トドマツがバリッバリという断末魔の悲鳴を残して倒れていきました。全国から寄せられた署名・ハンカチ・そして現地に集まった人々・地元斜里町民の声を裏切るかのよう。どれほど多くの人がこの瞬間を恐れていたことでしょうか。数千年の流れの中で育まれた知床の自然林・日本の国立公園はどうなるのでしょうか。この時は破たんをきたした国有林野行政の末期であり、活性化は林野庁自らに必要なのです。切らないで」という大きな世論がありながらメソッドにこだわり続けた林野庁と職務放棄の環境庁・文化庁の責任は重大です。

「知床問題」のこれまでの議論は「森林の活性化」「希少動物の保護」に集中されていきました。森が活性化されるか否か、シマフクロウがいないか、論議の外に「知床」の本質がありません。今後は(a)自然林と人工林の違いと位置付け、(b)国立公園の目的と現状、(c)森林の機能と林野庁の独立採算制(特別会計制度)の廃止など全国共通の課題を国民的レベルで話し合い行動する時にきています。知床の自然林を二度とこれ以上切らせないために、来年度伐採予定地(国道三三四号線から東側)は人手の入り込まない自然林が残されています。チェーンソーを入れさせないためには一層の努力と世論の盛り上がりが必要で、今後ともご支援をお願いします。

さらに私どもの力不足のため伐採強行という事態を生み出したことを深くお詫びいたします。

### 「切られる」絵ハガキ

伐採予定木の写真と解説付の絵ハガキです。多くの方々に知床問題を伝えるため活用してください。

1枚、70円  
ご希望の方は事務局まで。  
さらに、「知床の森合唱組曲」10曲の楽譜(コピー)、知床エイドテーマ曲「TAKING MY HEART」(夢を信じて)のカセットテープ 500円(送料170円)もありますので合わせてどうぞ。集会など仲間が集う時のバックミュージックにも最適です。

### 「知床を考える」出版

本多勝一氏編集の「知床を考える」が晩聲社から出版されました。知床国立公園内伐採計画の経過・問題など今まで新聞・雑誌に載せられた原稿を中心に、新たな原稿を加え編集されています。

頭の中を整理して「知床」を取り組み続けるためには是非一冊お手元に!

ご希望の方は事務局まで一冊2,000円と送料270円を同封の上、お申し込み下さい。  
郵便振替口座 小樽 1-4071

### 力を貸してください! 連合の賛助会員になりませんか

「緑豊かな北海道」といわれていますが知床国立公園内伐採問題、大規模リゾート開発等北海道の緑は狙われ続けています。自然と人間の共生をめざしながら少しでも良好な自然環境を次代に伝えるためにあなたの力を貸してください。賛助会員は「緑の下の力持ち」さんです。

自然の好きな方、自然保護に関心のある方、どなたでも自由に参加できます。義務はありませんが、年会費として年間1口3,000円(何口でもかまいません)を出資してください。

賛助会員になると自然保護の情報誌「北の自然」が隔月送付されます。催し・企画の他販売物の案内がされます。会員の方には自然保護パッチをさしあげます。

賛助会員：1口 3,000円(年会費4月から翌3月まで)  
送金方法：現金書留 又は 郵便振替 小樽 1-4071

その他、「知床募金」郵便振替 小樽 6-18005  
「立木買い取り運動」は1口 10,000円  
送金は現金書留にてお願いいたします。

KOKUYO  
7-TC756-0 A3  
クリヤー



# わたしの 言い分

林野庁が今度の伐採強行の根拠としているのは、委託した五人の生態調査委員会が三月に発表した報告書です。この調査方法には多くの批判があつて、依頼をこわったある北大教授によりますと、依頼に際して林野側は「調査だけしてくれればいい。結果の判断はごちからです」という身勝手な条件だったから、この教授は拒否したのだそうです。

「かんじんの森林施業について判断する委員が五人のうち二人いるが、(委託をうけた北海道森林技術センター)の沢田理事長といのは林野側はえぬきです。もう一人の長内北海道森林施業研究所長はよく知らんが、まあ林野に反感をひくがえすような人じゃないでしょう。一種のアセスメント(環境影響事前評価)に当たることをやるんだから、こういう人選ではまずい。それにこれ(発表された「調査報告書」)を見る

と、動物生態調査といつても一部の鳥だけですね。森林生態の方はさっぱりわからん。鳥にしてもこの時期だけの調査では特定の種に限られるし、葉もない時期では立ち木の生死さえ、厳密にはいちいち枝を折ってみないとわからん」

短期間でわからぬ  
——しかも積雪期のほんの短期間の調査……

「この一週間の生態調査は、動物の繁殖の一サイクルが完了する四季を通じての一年間がミニマム(最小限)ですね。二サイクルくらいは必要です。稚樹にしても、いっぱい生えていると書いておくれれば、それがどうい

ろ生長をしているかが問題で

つで約三千万円。その結果、福原に一番青のいい林道のための必要要件を市に回答した。またこれは済工されていませんが、市はこの調査結果を、各調査委員の意見もつけて分厚い報告書にして公表しています。環境問題というのは慎重にやらねい、あとでどろかえしがつかないからね」

「この伐採強行のあと、ヘリコプター集材の最後の日に私は現地を見ました。その日、樹齢二百年以上の太いナラやセンの壮年木が、新しい切り株の年輪をさつきり見せている。原生林を見ると、怒り以上に悲しみが湧き出た。二百年以上は木が枯れろな老木は伐採せずに残してある。

「この伐採強行の現場を見て、伐採のあとどの現場を見てルボを書きつらうで行ったので、死屍(しし)のいるの

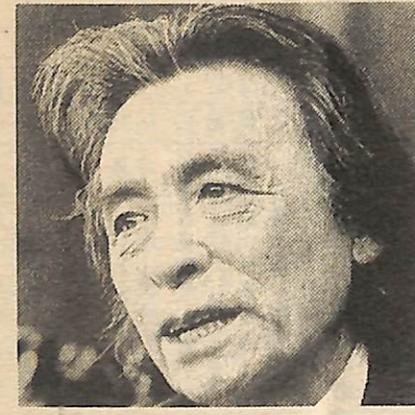
わめて短期間に、ごく一部の天然記念物の鳥類を中心とする調査をし、その報告にもとづいて伐採強行を決定、昨年度に予定されていた地域で今月十四日から伐採に着手、二十三日までにヘリコプターによる集材を終った。

「知床国立公園のな折をへたの環境庁長官の現地視察等もあって、動物生態調査を先に行わせることになった。結果が出るまで延期された。林野側は北海道森林技術センター(財団法人)を通じて、自然保護関係団体や国民環境基金(フシヨナルトラス)運動関係者が猛反発、曲

「この伐採強行の現場を見て、伐採のあとどの現場を見てルボを書きつらうで行ったので、死屍(しし)のいるの

## もうけ第一の知床伐採

### 疑問点多い事前の調査 金になる木だけ「択伐」



京大名誉教授 網英さん

「弱心配ない巨木  
——しかも選挙の最中の、マスコミがこれをとりあげる余裕はなくて切ること自体が問題なのです。何だかむなくしてしまつて……」

「択伐林業をやつてます。それと僕はいつも思つたが、知床を、択伐、択伐と書いておくれれば、実は本来の学問の意味では択伐なんてもと違つたんじゃないか。つまりその森林をたえず不整な状況にしておくために、各年代の木を、過密なところを抜いてコントロールするの「択伐」ですよ。太い木だけ抜いて、あかに稚樹が生えたとすると、それは択伐にならないし、林学

「問題一般的「国有林」ではなくて「国立公園」にある各年代(太さの階級)に応じて、過密なところを抜いてコントロールするの「択伐」ですよ。太い木だけ抜いて、あかに稚樹が生えたとすると、それは択伐にならないし、林学

「問題一般的「国有林」ではなくて「国立公園」にある各年代(太さの階級)に応じて、過密なところを抜いてコントロールするの「択伐」ですよ。太い木だけ抜いて、あかに稚樹が生えたとすると、それは択伐にならないし、林学

## 立木買い取り運動から

「立木買い取り運動」はフシヨナルトラス運動の変形版として、伐採予定木の一本一本を立木のまま買い取ろうという運動です。このような買い取り運動は法的に確立していませんし前例もありません。林野側がお金を受け取る保障もありません。さらに国民の共有財産である国有林の木を買い取りという事態おかしな話です。

「立木買い取り運動」に寄せられたお金は、昭和六十三年度伐採の時までに林野庁にとどけます。林野側がどうしても立木買い取りにに応じていただけない場合は必要実費を引いてお返しいたします。尚、「知床募金」としてご寄付いただければ、活用させていただきます。

五月十三日現在で、全国から一八九万円が寄せられました。全て銀行に預けられています。参加された方々は、名簿に整理される他会計他でも三重にチェックできるような厳重に管理されています。今後実費として支出されるのは通信費とパンフレット印刷費・パッチ代のみです。また「知床募金」にご希望の分も、

「立木買い取り運動」に寄せられたお金の活用はどうかという意見が出されています。この他さらに議論を重ね募金の活用をはかりたいと考えています。広く国民のアイディアも含め、国民の手で知床のあり方を考える場にしたいたいです。

「立木買い取り運動」にご理解とご支援をお願いいたします。

「立木買い取り運動」にご理解とご支援をお願いいたします。



「立木買い取り運動」にご理解とご支援をお願いいたします。

# 全国から寄せられた木々への願い

## ハンカチメッセージを知床に届けました

懸念されていた知床国有林の伐採は、まさに不意をつかれた形で、反対の声も無視されたまま強行された。折しも知事、道議会議員選挙を以ての発表と決行という暴挙。報道関係者、一般及び我々反対派の誰もが忙しい中、寝耳に水の出来事である。不意打ちの卑劣なやり口に憤りを感じる暇もないまま、田中事務局長はじめ、連合関係者その他が十一日札幌へ赴いた。私も現地へ赴くこの目で見て来たものを報告したい。

この許されざるXデーを私が知ったのは、十一日の期刊であった。土曜日とはいえず、事が手につかない。自然保護センターに一報し、現地へ急行する車に同乗させてもらえようと思った。山歩



ハンカチを巻きつける

を知らず。寒い。知床はまだ遅い春が訪れて間もないのだ。去りかけた流水が再び戻ってきたという若者たちだった。頭の下がる思いである。十二日の夜遅くに札幌を出たものの、真冬のごとき風雪。雪道に慣れていない彼等は、道産子ドライバーですら手こずる雪道に悪戦苦闘。十三日の果朝旭川のガソリンスタンドでの彼等の表情はさすがに疲労の色が隠せなかったが、疲れの他にきびしいものが浮かんでいた。午後には雪のない道東を順調に進み、「知床自然保護協会」会長石井政之氏宅に立ち寄り、現地の情報を得る。私がウトロのはずれに設けられたベースキャンプに到着したのは、六時を過ぎてからだった。流木を燃やした焚き火が集まっている人々

面はアイスバーンとなっていて、体重のかげぐあいで十数歩ごとに膝上まで埋まる。日にたたる。まだ小さな木々が整然と植えられた林地の左手には、百平米運動地が見える。林地のはずれに着くと、立入禁止の表示と共に、林を囲むようにしてテープが張られていて、皆無言でそれを通りぬける。

夜が明けはじめ、ベイスキャンピングから歩くこと二時間余り、ショッキング・ピンクのテープが巻かれた木々が見えた。たいへんな大さである。しかし見ると、国から送られてきたハンカチメッセージを木に巻きつける作業に入らなければならぬ。ところが予め何枚かをつなぎ合わせてきたものが、いざ幹に巻きつけてみると足りない。結んだりほぐしたり意外と手間がかかる。その間、知床の森を、木々を愛する人々の熱い声が目撃された。あたる報道されている。さまざまに思っている。瞬間をよぎる。機動隊まで出て切らねばならない木なのか。そして自分が力づくで木からはぎとられるときの様子等々。いや、何のためにやってきたのだ？ 迷うことなどないではないか。自分に喝をいれなければならぬ。十四日午前、有志の者が焚き火の周りに集合。寝袋のなかから私は、うとうとしかたけにすぎなかった。三時三十分、十五人の男女は、深夜も警戒されている林道を進む。道なき斜面を登る。表



の刃など入れてはならない御神木ばかりなのではないか。私たちが願った対岸の林にも、無機質な色彩のテープが巻かれた木々がいくつも見える。この木の選択はどのような基準からされるのであろうか。あんな場所では、ずいぶん狭い範囲で切られる木々が並んでいる。光を入れることで森林の活性化を図るとの営林署側の説明だが、これで隙間だらけになってしまふ。そう感じる場所がずいぶんあった。

いつしかハンカチもなくなり、しめなわも底についた。残念なのは、人員と時間が足りないことだ。かなり急な斜面ではあるが上の方に、何本もイチイの木にテープが巻かれていて、その確認しながら、何もできずに戻らねばならなかった。最初にテープの巻かれた木々を確認した地点で、木に抱きつく「チプロ運動」に入るためである。営林署の職員が、見えた。チェンソーを持った男たちはすでにこちらへ向かっている時間だ。背後でクマゲラの声がかたと思ふと、我々のいる近くの木へ飛んできた。彼等の森が今切られようとしている。

「切らないでチプロ運動もつと人がいたら...」

時刻は九時をまわったところであった。それがテープの巻かれた木々の根元は、いわゆる根開きの状態になっていて、足場はあまりよくない。報道関係者のヘリコプターの音が疲れた神経を逆撫でする。十分二十分と経つうちに体が冷えてくる。さすがに何もせずにはいられない。そのうち、眼下の踏み固められた道を、ヘルメットと作業服に身を固め、チェンソーを持った二十人ほどが黙々と山の中へ進んで行った。我々を見上げる者、無視する者。体が二つあるなら降りて行って彼等をも止めたい。しかし、それから間もなくであった。我々に向かってくる立ち退きを告げる拡声器の音が冷たく響いた。白いヘルメットが幾つも見え隠れする。作業エリアを示すテープが、我々が木々に抱きついていて一角を取り囲むようになっている。張りめぐらされている

性化を図るとの営林署側の説明だが、これで隙間だらけになってしまふ。そう感じる場所がずいぶんあった。

いつしかハンカチもなくなり、しめなわも底についた。残念なのは、人員と時間が足りないことだ。かなり急な斜面ではあるが上の方に、何本もイチイの木にテープが巻かれていて、その確認しながら、何もできずに戻らねばならなかった。最初にテープの巻かれた木々を確認した地点で、木に抱きつく「チプロ運動」に入るためである。営林署の職員が、見えた。チェンソーを持った男たちはすでにこちらへ向かっている時間だ。背後でクマゲラの声がかたと思ふと、我々のいる近くの木へ飛んできた。彼等の森が今切られようとしている。

ころ、営林支局長とか名乗る(正確なところを忘れたが)肩書きのついた地位にある人が、二人一人に対して、改めて立ち退きの勧告を告げて回った。私は何も言わずにらみ返すだけである。今さら何を言えよう。こうしての間も一本、また一本と切られているのだ。感情的になることはいくらでもできる。しかし解決にはならない。

とにかく体の芯まで冷える。足の感覚はない。目を閉じていると、夢ともつかない映像が浮かぶ。ふとバランスを崩しそうになり、我を戻す。そんなことを何度も繰り返した。近くの木にアカゲラの類だろうか、くちばしでさえずっている。シマ

ブクロウのためとか「人類の宝としての自然林」といった、知床を守るための様々な理由ともかく、今はこの小さな森の住人のために木を切らせたくない、そんな思いだけが頭に去来する。

一体機動隊などこに待機しているのかと思えるほど静かだ。すでに伐採が始まっているものの、ここで中止という事態でなんとか收拾されないものかという不安な期待も顔に出す。日も高く昇り、十一時もだいぶ過ぎたころ、我々のいる木々を数ヘクタールにわたって囲んでいたテープが振り払われた。営林署の本心は？ 今日このところは切らないというだけのことか？

十二時を過ぎても、チェンソーの遠い音はやまない。彼等には昼休みはないのだからか、などと、よけいな考えが浮かぶ。私はさほど空腹ではなかったものの、寒は耐えがたかった。やがてチェンソーの音もやみ、静かになった。十二時三十分ごろ、情報が入った。夕刻まで長引くかと思われたチプロ運動は、その時点で中断された。営林署は、反対派との摩擦を極力避けるため、十四日の伐採分は他の地点でまかない、反対派の入った林はその日は切らないとのこと。また、切られた木は我々がハンカチやし

めなわを結びつけることができなかったものばかりを優先して選択されたこと、逆に報道関係者を集めた伐採地では、わざわざハンカチやしめなわをはずすところを見せながらの伐採作業だったとか。次々と聞かされる事実を加え、とうとう伐採が強行されたという無念さが重なり、悔しき、虚しき、怒りといった感情が胸の内複雑にうずまいた。

我々が抱きついた木々も、十五日にはいとも簡単に切られてしまっているだけに、立ち去りがたかった。「みんなよくやった」「やるだけのことはやった」と誰かが言っていた。そのとおりのことだ。しかし、なんとかできなかったのか。ベイスキャンピングで焚き火にあたりながら(帰りの途中私は沢の中にひっくり返った)聞く流水の海からのつぶやきは、なんと虚ろだった。

今回の伐採強行の経緯は、新聞やTVを通じてご存じのことと思う。実際切られたものは、多方面からの削減や、林野庁からの伐採凍結地域の提示などの形で確かに何らかの力となっている。まだ六十一年度分が終わったにすぎない。もっと多くの人の力が必要である。実際行動して、この点を痛感した。

(吹田則明)